

# 「万灯会」

## 【趣意】

美作国主にして津山藩初代藩主 森忠政公の御命日である7月7日に合わせて、平成25年より毎年7月1～7日までの一週間、森家菩提寺の本源寺にて、「本源寺特別拝観」を行い、7日当日に「毎歳忌法要」を行っています。

今年の平成28年は、森忠政公をはじめ森家一門、並びに美作国の全ての祖霊の為に報恩謝徳の祈りを捧げ、美作国を灯す一灯となればという思いを込めて、初日の1日午後6時より9時まで、「万灯会法要」を行いたいと思っています。

「万灯会」とは、夕方から夜にかけて、数多くの灯明をともして、仏様や御先祖様を祀り、御供養する仏教法要の一つです。今からおよそ1270年前の奈良時代744年（天平16年）に、東大寺の前身の金鐘寺（こんしゆじ）というお寺で、万灯を灯したのが、日本に於ける万灯会の始まりとされています。

津山に於いては、本源寺が森忠政公によって現在の場所に建立された年の慶長12（1607）年、5月3日に忠政公の奥方、お岩の方が亡くなり、本源寺にお祀りされました。

その年のお岩の方の初盆、旧暦の7月の14・15日に、桶屋町・吹屋町から、本源寺のお岩の方の墓所まで、万灯がともされました。

そしてその翌年には、吉井川の川向こうから墓所まで、津山の町中に灯明が灯されました。現代のように、電気のない時代ですから、さぞ美しかった事と思います。

この万灯会の素晴らしい所は、大名である森家や、家臣達が始めたのではない所です。桶屋町、吹屋町の方々が始められたのです。

そして、翌年には、吉井川の川向こうから、町中の方が賛同して灯明がともされました。

いかに、忠政公や奥方が、津山の人々から慕われていたかが分かります。

この万灯会は、慶長12（1607）年のお岩の方の初盆から始まり、寛永11（1634）年に忠政公が亡くなってからは、忠政公とお岩の方の二人の供養の為に行われ、天和3年（1683）の、忠政公の50回忌の年まで76年間、毎年続けられました。

この法要を、天和3（1683）年から数えて、333年ぶりの本年に（2016）復活させようと思います。

夕方から夜にかけての行事で、問題点多々ございますが、皆様方のご賛同を賜わり、大勢の方に御参りして頂ければと思っています。

何卒宜しくお願い申し上げます。

万灯会準備委員会

お問い合わせ 本源寺 0868（22）7351